

セーヌ河左岸に佇む荘厳な建物はかつてオルレアン鉄道の終着駅であった。

ルーブル所蔵作品以降の1848～1914年までを展示しており、中でもモネ、セザンヌ、ドガと言った印象派の秀作が集まることで名高い。一歩、建物内に足を踏み入るとまず巨大な吹抜け空間に圧倒される。中央通路には彫刻作品が配され、フロアから視点を変えて眺めることが出来る。壁面には一つの美術品として完成されたような美しさを持つ大時計が掛けられ、かつてこの建物が駅であったことを彷彿させる。

展示室の天井・壁面には駅であったとは思えないほどの石造りの装飾が施され、展示空間を惹きたてる。

1900年の建設当時、最先端であった鉄・ガラスがふんだんに使用された軽やかさと石造りの壁面の重厚さとの対比が興味を惹く。当時としては昔からある素材と新素材を使用した革新的な試みであったのだろう。

